特250
263

將

四王天延孝閣下講演

フリーメーソン秘密結社に就いて

世界覆滅の大陰謀曝露

人類愛善會亞細亞本部發行

148

始

特250
263

パンフレット發行の辭

世界永遠の平和と眞の幸福を來さんには皇道の本義に基づきたる人類愛善の大精神を發揮しなければならぬとは本會の唱ふるところなれば之に反するものは人類共同の敵として排撃しなければならぬ。

フリーメーソン祕密結社の暗躍は人類の平和と幸福とを奪つて世界覆滅の大陰謀を實現せんとするものなれば本會の精神に反し人類愛善運動とは逆行するものである。

現今世界に於ける政治經濟思想及び國際問題等の紛糾、行詰りは彼フリーメーソン祕密結社の書き卸したる筋書によるものなれば之が全貌を知らざれば覆滅運動の魔手から世界を救ふことは出來ない。

英米露支等が或は單獨に或は國際聯盟として吾國に働きかけてゐる壓迫と世界全局の動搖とは彼フリーメーソンの操縦に因るものなれば其の正體を知るにあらざれば世界の波瀾を鎭定することは出來ない。

神國日本を蠹毒する共產黨赤賊は彼フリーメーソンの傀儡なれば共の計畫を檢討して根絕しなければ神國日本の光輝を發揚することは出來ない。

玆に於てフリーメーソン研究の權威、陸軍中將四王天延孝閣下に特別講演を乞ひ之が筆錄を上梓した所以である。

昭和八年十月

人類愛善會亞細亞本部

人類愛善會主旨

本會は人類愛善の大義を發揚し、全人類の親睦融和を來し、永遠に幸福と歡喜に充てる光明世界を實現するため最善の力を盡さん事を期するものである。

抑人類は、本來兄弟同胞であり、一心同體である。此の本義に立歸らんとすることは、萬人靈性深奥の要求であり、又人類最高の理想である。然るに近年世態急轉して世道日に暗く、人心日に荒びて其歸趨眞に憂ふべく、懼るべきものがある。斯くの如くにして進まんには、世界の前途は思ひ知らるゝのである。

されば吾等は此際躍進して、或は人種、或は宗教等、總ゆる障壁を超越して人類愛善の大義にめざめ、此危難より脫し、更に進んで地上永遠の光明世界を建設しなければならぬ。是れ實に本會が玆に設立せられた所以である。

フリーメーソン祕密結社に就いて

陸軍中將　四王天延孝氏講演

昭和八年九月九日
於飛行會館
主催　人類愛善會亞細亞本部
速記　東京講演會

明治十二年九月二日、埼玉縣比企郡唐子村に生る。明治三十三年六月少尉任官、同四十二年十一月陸軍大學校卒業。その後關東軍參謀、砲工學校教官兼陸軍大學校兵學教官、佛國軍從軍武官、西比利亞派遣軍司令部附、所澤陸軍飛行學校教育部長代理、同下志津分校長、陸軍省航空課長、國際聯盟に於ける帝國陸軍代表兼空軍代表、豐豫要塞司令官、第十二師團司令部附等を歷任し第三師團司令部附にて現役を退き現在帝國飛行協會總務理事に就任、ユダヤ問題に關しては吾國の權威たり。

著書――「猶太民族の研究」「國際共產黨の話」外多數あり

◇インターナショナルと祕密結社

本日は、フリーメーソン秘密結社に就いての、話をしてくれといふ御注文でありますが、このフリーメーソンといふ問題を、研究する必要がいづこにありや、といふ事から先づ、申上げたいと思ひます。彼の我大日本帝國を破壞し自由、平等、友愛、の名に於て、實は國家を混亂に陷れようとする、共産黨の如き、これは世界秘密結社であるところの、フリーメーソンの一つの機關であります。又平和の機關として、實に立派な金看板をかけて居るけれども、實は平和を攪亂する事になつて居る處の、彼の國際聯盟も亦秘密結社の拵えたものです。左樣な譯でありますから、この秘密結社の正體を調べるといふ事は、對外的には我國の崩壞を考へてゐる處の、彼等の輩に對しても、亦內憂に對する上からしても必要でありますが、更らに執拗にも、支那を使嗾して、世界の大動亂を惹き起さうとしつゝある處の、彼の國際聯盟の魂膽を看破して、そしてこれに對應する爲にも、フリーメーソンといふ秘密結社を、分解して見る必要があるのであります。

共産黨といふ黨派は、今如何なる形式をもつて進みつゝあるかと云へば、即ち第三インターナショナルといふ、世界的機關が動かして居るのでありまするが、その第三インターナショナルといふ機關は、これは秘密結社が拵えたのであります。その第三インターの母體たる第二インターナショナルといふのも亦、世界秘密結社が拵えたのでありまして、もう一つ遡れば、第一インターナショナルも、マルクスその他の秘密結社員が拵えたのであります。インターナショナルの大會合は、いつでも秘密結社の總會等と、前後してやつて居るのです。

例へば、第二インターナショナルといふのは、千八百八十九年の七月十四日、即ちフランス革命の、百年祭の日に創立されました。それから中一日おいて、七月十六、七日の兩日に、世界秘密結社の大會合が矢張り巴里に行はれて居る。さういふ具合に、いつでも一緒に同一の機會にやる樣に致して居ります。第二インターの第五回大會は、萬國博覽會が一千九百年巴里に於て開催せられた時で、矢張り世界秘密結社の會合の機會であります。

さういふ具合にインターナショナルの組織と、秘密結社

の組織とは、切つても切れない關係にあるので、話は色々混雜致しますが、第一インターナショナル第一回大會を、千八百六十六年の九月、國際聯盟が毎年總會を行ふ處の彼のジュネーヴに於てやつて居るのであります。序でゞありますから申上げますが、今年の國際聯盟の總會も、九月にジュネーヴでやります。

これは今年猶太の正月元日が、九月三十日でありますから、その關係でいつもよりも遲れて、九月二十五日に開會する譯であります。大體九月の第一月曜日をもつて、總會の開催日にして居りますが、時々閏がはいるので、十月の初めに猶太の正月の元日が來る年があるのです。そんな關係で今年は少し遲れて居る樣であります。大體共産黨とか社會主義といふものが、インターナショナル秘密結社の手で動いて居るといふ事は、私が詳しく例證をあげて説明しなくても、既に御承知と存じますから、その方面はこれで打切つて、國際聯盟と秘密結社の關係を更にはつきり申し上げたいのです。

◇國際聯盟と祕密結社

人はよく今の國際聯盟は、米國の大統領故ウィルソンが提唱したもので、彼がそれを主張して、其の抱負を貫いたものであると御考へになつて居ります。それは無理もない。ジュネーヴにある、國際聯盟の外側の石垣の所に行つて見ると、あすこに花環が一つ捧げられてあつて、その下の石に「國際聯盟創立者米國大統領、ウードロウ、ウィルソン君に敬意を表す」と刻みつけてある。ですから世間ではウィルソンが拵えたと計り思つて居りますが、實はウィルソンが、提唱しました時よりはもつと前に、亞米利加が世界大戰に參加すると、もうこれで世界大戰はお終ひになるのだと云うて、亞米利加の兵隊が、歐洲戰場に到着すると直ぐ、戰爭をやめる話が出て、國際聯盟をつくる話が初まつたのです。當時私は佛蘭西の中央軍に居りましたが、フランスの國祭日、七月十四日に亞米利加の軍隊も參加して分列式をやりました。これに先立つ事數日前、大正六年の六月二十八、九、三十と三日間、巴里のカデー町十六番地に本部を有するグラントリアンといふ、大陸フリーメーソンの大本山に於て、猶太人アンドレ、ルベーが議長となつて會議を催し、議事を重ねて、遂に國際聯盟をつくらうと云

ふ話が始まり、その成果が出來て、そして聯盟規約草案十三ヶ條は、その時に成り立つて居るのであります。現在の規約は廿六ヶ條から出來て居りますが、その時のはその半數の、十三ヶ條であります。條項は多くなつても、大體その時の十三ヶ條が、今の聯盟規約の骨子になつて居るのであります。

その六月二十八日とはそも〳〵如何なる日であるか。これを世人は、ウツカリ雲煙過眼視して居るのです。その六月二十八日といふのは、大正六年六月二十八日から丁度三年前の、大正三年六月二十八日に、オーストリアのスラエヴオといふ猶太町に於て、そこをお通りがゝりになりましたオーストリア皇太子フエルヂナンド二世殿下を、フリーメーソン秘密結社員であるプリンチツプといふ、セルビヤの青年がブローニングといふピストルで、ギヤングをやつて暗殺した事に端を發して、世界大戰が起つたのでありますが、その六月二十八日の三年祭の日がその日で、巴里の本山で再び今度は反對の平和の話を始めたといふ事は、大に注意すべき點なのであります。そのプリンチツプといふ青年にブローニングのピストルを貸與した、チガトーウイチといふ男、又彼等に旅費を供給して援助した處の團體を調べ上げて見ると、皆このフリーメーソン秘密結社員なのであります。

でありますから、このフリーメーソン秘密結社が世界大戰の火をつけて、そしてその同じフリーメーソンが、今度は火消しに廻つたのであります。

◇世界大戰と秘密結社

で何が爲に世界大戰をつくつたか、といふ事になりますと、これは世界革命を企て、世界大戰を勃發せしめたのは平時に於ては何事も出來ないから、戰爭といふ事をはじめさして、——戰爭のどさくさに紛れて、革命をやらうといふのである。この事は世界大戰勃發の七年前に第二インターナショナルの第七回大會に於て、充分協議盡されて居るので——これは天下にかくれもない事實であります。事實また先般の世界大戰は、露獨墺の三國の革命をもつて終つて居るのであります。此の三國革命の終了が、即ち戰爭の終了であります。猶太人であるロシヤ共産黨の大立物の、彼のトロツキーも「革命と戰爭の間に何等の限界なし」と

高唱し豪語して居る位であります。事實先般の世界大戰といふものは、彼等秘密結社が、色々方法を講じて拵えたので、スラエヴオのブローニング一發の銃聲といふものは、只積んだ薪に、ガソリンがかけてあつたのに、マツチで火をつけたまでのものでありますが、この薪も亦ちやんと彼等によつて積まれて居つたのでめります。或個人その者が飛び出して來てやつたのではなく、例へば日本で云ふ、彼の佐郷屋留雄と云ふ樣な、個人がやつたのではない。大なる組織の下にやつたのであります。オーストリアのウイヒテル博士の發表を見ますといふと、フエルジナンド二世殿下を斃すといふ事は、その前々年大正元年五月二十四日ドイツの秘密結社に於て、既に決議になつて居つたのでありますが、その實行は翌年即ち西暦で云へば一千九百十三年に事をあげる筈であつたのが、色々の手違ひからして遂に一年おくれて、一千九百十四年に始める事になつたのだと發表されて居ります。左樣な譯で、この國際聯盟なるものは、世界秘密結社の深い計畫から出來たのであります。この事に就きましては、フリーメーソンと猶太人の關係を申し上げまするど、尙はつきりして來ると思ひますから、この邊でとゞめて置かうと存じます。

斯樣なわけで、我國がこの非常時に於て、內憂外患を切り拔けるに就いて、この禍根であるところのフリーメーソンといふものを知るといふ事は、實に必要な事であると私は信じて居るのであります。

◇フリーメーソンは秘密結社なり

そも〳〵フリーメーソンとは何であるか。或る人はこれを、秘密結社ではないと稱して居ります。例へば東京帝國大學に於て、久しく教授をしてゐられ、この間鎌倉で亡くなつた吉野作造博士の如きは、秘密結社でないと稱して居りますが、とんでもない間違であります。普通巷間にありふれた辭書をもつてきても、秘密結社といふ事になつて居るのであります。事實秘密結社でありまして、私も巴里のカデー町十六番地の大本山を訪問して來ました。特別の紹介をもち、嚴密なる合言葉をもたない以上は、一歩も中へははいれません。又幣原元外相の如きは、これは社交機關である、さういふ怪しい秘密結社ではないと辯解をされたのであるさうでありますが、之等は人を謬るの甚しいもの

でありまして、正に祕密結社であります。このフリーメーソンと云ふものは、一體何時頃世の中に現れたものであるかと申しますと、此の起源に就いては、多くの説があるので、世にありふれたもの丈けでも、少くとも一ダースはあります。(笑聲)

或は猶太のソロモン王の時からであると稱し、或はピラミツドの出來た時から既にさうであるといふ事を申します。本當の事は祕密結社の事でありますから、わかり難ふ御座いますけれども、要するに元は石屋の組合であつたといふ事は、本當であります。今日色々な道具をもつて居り又フリーメーソンの色々な名士が盛裝をして寫眞を撮つて居るのでも、石屋の前掛をしめて居る事が、彼等の傳統を忘れない爲でありまして、石屋の使ふノミもありますし、更に名稱から云つても「メーソン」といふ事は「石屋」といふ事でありまして——石ばかりでなく、煉瓦や、雜多の石材などを——寺院の大建築をする、あゝいふ風な事はみなメーソンがやつたものであります。つまり正直な極く信賴の出來得る石屋には、國境がないといふので、それ等が昔あちらこちらと、國境を越えて歩きます時、そのメーソンは兄弟として扱つたのであります。十八世紀の始め、即ち一千七百十七年これがスコツトランドに於て、少しく形體を改めて、インテリゲンチヤがこれに參加して、そのメーソンの組合組織といふものを、精神的の方向にもつて行つてしまつたのであります。それでありますから、メーソンはオペレーテイヴ、メーソンであつたのが、千七百十七年以後スペキユラテイヴ、メーソンといふ、名前になつて居ります。そんなになつてからして、漸次祕密結社になつて來たのであります。

◇フリーメーソンの發生

最初はイギリスのスコツトランドに發生したのでありますが、それが大陸に移り、又アメリカに移り、今日では全世界に波及して居るのでありまして、これに加入して居る人員はどの位あるかと申しますと、世界大戰勃發以前に於ては、二百三十五萬人を數えたのであります。それが今日に於ては四百四十萬人といふ多數になりました。無論我國にも、不幸にしてかゝる團體にはいつて居る知識階級、有力者が居るのであります。

このフリーメーソンといふものは、一體何の爲に生れたものであるか、これにも色々な説もある樣ですが、或る人はこれをもつて、英國が世界を統治する爲の機關であると申します。

英國の皇室は、代々これに御關係になつて、現在に及んで居るといふ風な關係から、世界各國がその結社に加入し英語を使ひ、英語をだん〳〵廣めて行く結果は、英國の統治下に屈服する樣になつて來るといふ風に見て居る人もある。又さういふ著書も出て居ります。然し乍ら又他の一説は、さうではない。實は猶太人の機關である、猶太人の世界統一を助ける爲の機關である。イギリスに本據を置いたのも、それ等の意味から置いたのであつて、決してイギリスの爲めといふ譯ではないといふ説があります。色々調べて見ましたが、最も信賴し得べき事は、フランスの教育家で、隨分永い間フリーメーソンに加盟して、三十三階級ある中の、十五階級迄あがつて、書記局にずつと居つて實際の事務を取扱つて居つた人が、今から二十數年前に、どうもフリーメーソンのやる事は表裏がある、外部に向つて云ふ事と、實行して居る事が違ふ。インチキだ。政治に超越した機關であると稱し乍ら、實は政治に干與し、不都合千萬であるといふので、暗殺を覺悟の前で脱退しました。事實暗殺の脅威を受けたのであります。

即ち「お前はこの結社を脱退すれば天ヶ下には隱れ家がないぞ」と威され、又「反對に思ひとゞまるならば特別をもつてもう一階級をあげてやる」といふ樣な點で、勸誘も受けましたけれども、斷然その結社を脱退して、自分の手に掛けて居つたところの、色々と經驗した事を基礎として「余は如何にして、フリーメーソン祕密結社に加入し、これより脱退せりや」といふ、思ひ切つた本を出して居ります。それ等の本を見ても、猶太のものであるといふ事は、私は確信を得て來たのでありますが、尙近來猶太の百科全書に、彼等自らが告白して居るものを見ますると、寔に明瞭であります。「友愛」といふ名前をつけた、祕密結社がありまするが、兎も角色々なフリーメーソンの團、社が出來て居る。——そして表面上は猶太人でない、友愛の敎會みたいなもので出來て居るけれども、それは殆ど全部或は完全に全部最高幹部は猶太人から成り立つて居る。かゝる團體の中に於ては、多くの猶太人が最高の位置を占めて居

るんだ」といふのです。例へば「ニューヨークのダイシアスといふ團體に於ても、猶太人が最高幹部に選ばれてゐる」どいふ風なことを書いて居ります。未だもう一つあります。「フリーメーソンの、其のテクニカルな言葉、或はシンボリズムといふものは、猶太の考へに充ちて居るんだそれから又猶太の言葉が澤山採用されて居るんだ」と明言して居ります。これは猶太人の、世界統一の爲の機關といふ事が本當であります。

◇猶太人と秘密結社

何の爲に猶太人が斯る機關を必要とするか、といふ問題に就いて論ずる爲に、玆に於て猶太人の世界征服、世界統一の野望を御話する必要が起つたのであります。

彼等は元來自己民族をもつて、世界唯一の人類であるとなして居る。ハバメチアといふ經文の、百十四章の第六節に「この世に人間と稱すべきは唯猶太民族だけである、その他の民族は人間に非ずして獸類也」と云ふ事が書いてあるのであります。これは隨分思ひ切つた言ひ方でありまするが、彼等は彼等の言葉で、獸類をゴイと呼ぶのであります。

又聖書に「神は諸民族の中より、吾等を選びて彼等の上に置き給ふ」かういふ事が書いてあります。又さつきの古い經文の中にありますが、「他民族の所有する財産は、結局猶太民族の所有に歸着すべきものである。それだから今の中に、吾等の手に回收する事は何等差支へなし」といふ事が書いてあります。舊約全書のイザヤ書第六十章第十五節にも「海の富爾(ナンヂ)につき諸々の國の資は爾に來たるべければなり」かういふ事が書いてあります。そこで世の中にある財産といふ財産は、殆ど全部猶太人の所有に歸するものであると彼等は考へて居る。それだからインターナショナル、バンキングコーオポレーション(銀行組合)は、色々なインターナショナル的の組織で國際銀行を拵え、彼等が牛耳を取つて、どし／＼彼等の手に、金がおさまつて行く樣になつて居ります。詐欺破産であらうと、又如何に惡辣な手段であらうとも、そんな事には全然お構ひなしに大投機を張つて行くのはそれが爲であります。

又アブダサラといふ經文の中に「ゴイがゴイを殺し、或はゴイが猶太人を殺害した場合は、其の責任を取るべきも

のであるけれども、ユダヤ人がゴイを殺したる場合にあつては何の責任もない」と書いてある。

昔、封建時代に武士が百姓町人を傷つけ、殺してもお構ひなし、所謂切捨て御免と同じ事が書いてあるのであります。これ等は實にとんでもない事でありまして、あの民族の中から、アインスタイン博士といふ碩學の士を出し、哲學方面に於ては、ベルグソン博士といふ樣な、世界的な大哲人を出して居る、猶太民族が二十世紀の今日、かゝる愚劣な差別的言辭を弄して居るといふ事はあるまいと、私も見當をつけました。それで段々とさぐつて見ますと、今申し上げました樣な、ひどい言葉をその儘書物の中に殘してあるのは、オランダのアムステルダムの猶太寺院と他に一ケ所丈で、その他のお寺にあるのは、そんな激しい文句は皆消して了まつて、書き代へられてあります。

大正十四年にロンドンに於て、國際航空會議が開かれました時、私がそこに參りまして、會議の餘暇一生懸命に、こうしたタルムード(猶太聖書)を搜して歩きました。すると一人の猶太の本屋が、私に見せに來て吳れたのが、其の當時出來たばかりの新しいもので、その中には今の樣な文字はなくなつて居りました。大變喜んで、終りまで讀んでゆかうとすると、誠に嫌な文句に出會ひました。「ザ・ワールド・ヰオズ・クリエーテッド・オンリー・フォア・イスラエル」即ち『世界といふものは、單に猶太民族の爲にのみ、創造せられたものである』その他の民族は、大和民族であらうと、チウトン民族であらうと、スラブ民族であらうと、共等が死なうと生きやうと、そんな事はちつとも吾々には關係はない。兎に角世界の全部が、吾々猶太民族の爲にのみ造られた』といふ事で、かうした確信をもつて居る。これは實に偏狹な事でありまして、左樣な偏狹な、可笑しな考へといふものはない。これは實にとんでもない考へであります。それがどうです、八年前に英語でちやんと印刷して、青年に讀ますべく仕組んであつたのです。

我大和民族も、勿論民族的誇り、自信力をもつて居る。が然し吾々のそれは、斯る排他的な偏狹極まるものに非ずして、確固たる歴史的背景に基礎づけられた、正當なものであつて、かくも盲目的に「他民族はつまらん、吾々以下の動物である。世界は大和民族の爲に

のみ造られて居る」といふ様な事はない。「世界は人類共通的のもの」であると思惟し、かゝる偏狭なる自負心――根據のない自負心を、持つてゐないのでありますが、彼等猶太民族が左様な偏見、排他的考へをもつて居る事は、實に世界平和の亂れるもとであるといふ事を、はつきりと意識して頂きたいのであります。

　而して、この猶太人が、自分等の野望、非望を充たさんが爲には、色々な方策を企てゝ已まないのであります。これ等は蓋し一々枚擧すべく遑がないのであります。彼等はその爲には總てをやる「ザ・エンド・ヂヤスティフアイス・ザ・ミーンズ」即ち『目的の爲めには手段を選ばず』つまり「目的さへ善であれば何をやつてもいゝ」といふのが、彼等のやり口でありますから、他の國々民族間に「流血の慘事」を惹起させようと、どうしようと平氣の平左であります。自分等の世界統一さへ出來れば、何等の差支へなしといふのです。

　或は一國の中に階級鬪爭を起さして助け合ふべき、愛し合ふべき同胞を、階級鬪爭の渦中に投入して、血で血を洗ふ悲慘事をやらして、自分達は高見から見物して、彼等の目的が着々と、その實現へと進行して行く有樣に、微笑してゐるのであります。

　斯く彼等は、目的さへ善（但し彼等にとつてのみ）でありさへすれば、その手段は如何に非人道的であらうと差支へない、要はその當初の目的を貫徹するにありといふのであります。

　神武天皇は「六合を兼ねて都を闢き、八紘を掩うて宇となす亦可ならずや」と仰せられましたが、吾々は目的も善でなければならず、手段も亦善であらねばならぬといふので、皇道は坦々としてゐるのが、我國惟神の大道であります。けれども彼等は、何處を通らうと構はない、といふやり方でありますから、これは覇道であります。近年になりまして――彼等が自白した色々な文獻を私はもつて居りますが、その中にあるのですが――或る時は、一千九百二十年頃になつて、猶太民族が非常につけあがりまして、ジユネーヴで發行された、猶太人の本の中に、詩文でいろ〳〵書いてありましたが、餘り自分等の思ひ通りに行く爲に、すつかりつけ上つて、やたらに豪語したものでありました。ところがその頃から、全世界に亘つて、猶太民族に對

しての、反感が起きたのであります。それは一千九百二十年の六月二十日、ロンドン・タイムスに、この本の原書である、猶太の著書を發表しました爲に、世界的に猶太民族に對する反感がまき起りました。そこで彼等は鳴を靜めて餘り露骨に自分の方策を暴露し、他民族にぶつつかる樣な事を、しちやいかんといふので、靜かに沈默を守る事にしました。

　その頃、即ち大正十一年の四月の某日、私は恰度ハルピンに居りまして、あの邊一帶にかけての、猶太教の一番ゑらい、レービンといふ坊さんが、春の復活祭の晩に、演説をするのを聽きに參りました。なか〳〵普通には、這入れないのでありますが、幸ひ或る猶太人に懇意な者が出來まして、それと一緒に這入つて行きました。演説を聽いて見ると驚きました。それはかういふ事を言つてゐるのです。「吾々猶太教での復活祭と、基督教での復活祭とは、暦日によれば一日の違ひしかない、然し乍ら、その意義に於ては實に大なる相違がある。何故かならば、基督教の復活祭といふのは、ナザレのイエスといふ、たつた一人の人間が十字架に磔りつけられて、三日後に甦みがへつたといふ話なんだが、吾々猶太民族の復活祭は、民族全體が亡び國を亡くしてしまつて、それが又二千年の後に復活して、立派な民族として浮びあがつて、民族の使命を達成するといふ實に大なる復活であるんだ。ところが吾々民族の中には、實に聖書に對する信仰が薄くつて、これを本當に信頼出來ないで、氣の弱い事を言つて居るものがある樣だ。吾々が今日國をずた〳〵に切られて、世界各國民の中に――世界大國の間に介在して居つて、如何にして此の復活が出來るか、これは聖書の、文學的の觀察に過ぎないといふ弱音を吐く者もあるが、これは蓋し思はざるも甚しいものである。これ等薄信の教徒は、須らく歐洲大戰に於て、彼の山の樣な戰鬪艦を、何人が打ち沈めたかを靜かに考へて御覽なさい。かの大軍艦を沈めたのは、これは潛水艦といふのが行つて、海水を潛つて戰鬪艦に接近して、命中確實といふところまで行つて、水雷を仕掛けて爆沈せしめたではないか。即ち吾々民族は極て少數であるが故に、あからさまに暴露して邁進すれば、直ちにやられて了ふが、そこを即ち潛水式の努力をする事によつて、正に吾々の目的を達成する事が出來得るのである、といふ事を同民族に話して居

たのであります。

その話のあつたと前後して、クリオリンと云ふ猶太人で社會主義新聞を出しております。私の知人が日本海海戰の事を短篇的に書き、中心人物としては、ヨリサキ公爵と云ふ海軍士官を持ち出しまして、その公爵が一生懸命に敵の方を向いて、命令して居るが、その舟の龍骨の下には敵の水雷が近づいて居るのを知らずに、敵の方計り見て指揮をして居る」と云ふ、嘲笑的の言葉をもつて、面白くかいてある。その短篇物を載せた新聞を、若い記者に持たして、私の所へ寄越して、どうぞこの記事だけは見逃さないで下さい、お讀みになつたら、御感想を承りたいと、言ひ置いて歸つて行つたのであります。見るとそこには御丁寧に、朱線が引いてある。私はその前に、レービンと云ふ坊さんの御説教もきいて居りますし、愈々この手で來るんだなと考へました。

彼等の宣傳團は『もうお前さん達が、一生懸命でシベリア出兵とか、或は對外關係などもやつてゐるけれども、お前さん達の本據の日本には、ずん／＼社會主義、共産主義を持ち込んで、床の下は猛火になつてゐるんだぞ』と云ふ諷刺的なものを、私につきつけた譯でありませうが、その後會つた時に、手ひどく反駁しておいてやりました。

「君達の所に情報なんか持ち込む奴は、金でも貰はうとか云ふ様な、色々なインチキ先生達で、今にも日本が潰れそうな話をするけれども、日本には實に何とも云へないところの、一ッの力があるんだ。舟でいふならば、復原力といふのであつて、左に傾いたと思えば、其反動で又右に傾いて正位に復し、いくら動揺しても沈沒しないのと同じ様に、我大日本帝國は出來てゐるんだ。又國家主義者なんか極く少數であると思うてゐるが、一見社會主義者、或は共産主義者らしく、たゞ表面だけのみで講演するとか、文章に訴えるとかしてゐるにすぎない。ヒョロ／＼の主義者であつて、内地に行つて見ろ、かくれたる無數の國家に忠實なる人間が雲の如くにゐるんだ。君等から報酬をもらう事をあてにして、嘘報を平氣で賣る奴の言を信じてゐるなんて、隨分お目出度すぎるぞ」と話した事がありましたが、要するに彼等は、如何にしても少數民族であります。地球上に千五百四十五萬人しか生存してゐない。全人類の百廿分の一にも當らないのでありますから、表面から彼等がや

つて來たのでは、叶はないから、どうしても浮きつ沈みつ潜行的な色々な方策をもつて、彼等は手を變へ品を變へて來る事は、殆んど潜水艦式努力の如きものでありますが、彼等自らが手を下して、その國の人をしてやらしめやうとするには、どうしても祕密結社といふものを、拵えなければ出來ないのであります。彼等の言葉に「ゼンタイル、フロント」といふのは、ユダヤ人に非らざる者を「フロント」即ち第一線に起たしめて、彼等は蔭から、それを統制しつゝ自分達の計畫の完成へと志すのであります。その統制は何によつてやるか、即ちそれを、フリーメーソン祕密結社によつてやるのであります。然して正義人道自由平等などと金看板をかゝげて、それについて來る人間を、色々に教育しまして、彼等と同様の腸まで猶太精神になる様にして居ります。先刻申しました、十五階級にまで進んで居りました、フランスのアルバン・セリーと云ふ教育家の如き、よほど國民教育が出來て居りましたと見えて、腸が腐らなかつたけれども、普通の人間でありますと、結社に入つて色々な形式によつて、色々な教育をやられるうちに、腸まで猶太人になつてしまふ様であります。甚だ遺憾に堪えない事には、日本にもそう云ふ手合がゐるのであります。猶太人の指示したる、極端なる自由主義を强調し、そして共産主義や、社會主義の旗幟をおし立てゝいゝ氣になつて、その魔手に飜弄されて居る。かゝる種類の人達は、多くはこのフリーメーソン祕密結社に、加入してゐる人々であります。それらの人々は、腸が猶太人になりきつてゐる。そういふ關係で彼等猶太人等はどうしても、猶太の最終的大目的である世界統一を達成する爲に、フリーメーソン祕密結社と云ふものを拵えたのであります。その中心人物には猶太の百科全書にある如く、最高幹部には猶太人が居るのでありますから、フリーメーソン祕密結社の最後の目的は何であるかと申しますと、無神論的の、或は無宗教的の、共和國の建設と云ふ事であります。それに加盟してゐる他民族どもは、一生懸命に世界共和國の成立の手傳をなし、そして出來上つた曉には、これを猶太人に差上げせしめられるのであります。（笑聲）

でありますから、これは猶太民族の理想に、ピツタリとくつゝいてゐるわけであります。この祕密結社に加入するには、一體どう云ふ試驗を

されるかと申しますと、これには色々な獵奇的な事がありますが、何しろ私どもは、彼等の内に一歩も、入る事が出來ないのでありますから、自分では實見した事はありませんが、これは明瞭に彼等の敎科書に書いてあるのであります。人間して、非常に面倒な手續を必要とするのであります。人間は嚴選主義をもつてやりまして、そして度胸だめしをやり、眞暗闇の所で目かくしをして、井戸の中に吊り下げて見たり、色々の所を歩かしておいて、それから耳の所でピストルを打つて見て、震ひあがる樣な奴は落第（笑聲）、と云ふ風にしまして、或は目かくしをとる時に、刀と槍とを八方から目の前につきつけて、吃驚する姿を見てやらうとか（笑聲）色々な度胸だめしの方法が、ある樣であります。又固い誓いをたてるのでありまして、如何なる事があつても、自分の口から『吾はフリーソーソン祕密結社員なり』と云ふ事を、公開しない樣な組織になつてゐるのです。首を刎ねられても、自分の口からは云はない事になつております。外國から日本に來ましても、日本の結社の代表者が「お前はフリーメーソン祕密結社員であるか」とたづねても、決して「イエース」とは答へない。然らば如何なる返答をなすかと申しますと「人は自分をフリーメーソン祕密結社員であると呼んでゐます」と答へます。（笑聲）

決してそうだとは申しません。それは只今申しました樣に、絕體に自分の口から云つては、いけない事になつてゐるからであります。

先程申しました、プリンチツプと云ふ青年が、世界大戰の火付人足の役をやりました結果、セルビヤの裁判所に立つ日が來ました。そこで彼は嚴重なる調べを受けました。その時に司法官から「お前はフリーメーソン祕密結社員か」ときかれた時に、ウンともスンとも云はない。そして「何故さう云ふ質問をなさるのか、何の必要があつてそう云ふ事をきくのか」といふにとゞまつて、更に進展しない。そこで司法官は――司法官も日本の司法官とちがつて、なか〳〵よく調べてゐる――「お前達の結社では、自分の口から、祕密結社員であると云ふ事を、云はない規定になつてゐる事を知つて居るから、改めてきくが若しお前がわしの答へに對して、何も返答しなかつた場合には、肯定の答であると認めるぞ。――それできくがお前はフリーメーソン祕密結社員であるか」被告は默して答へない「よしそれな

らお前はフリーメーソン祕密結社員であると認める」（笑聲）と云ふので、ずん〳〵裁判を進めて行きました。「自分がそうだ」と云つたら、自分らの誓ひにもとるが、默つてゐる分には、差支へないと云ふのです。（笑聲）

そう云ふ樣な調子で、彼等は決して自分からは云はない事になつております。

吉野博士の如きも、かういふ伏線をはつております「これは實にいゝ機關であるが、私はまだ機會がないので、これには加盟してゐないが、或は他日加入する事があるかも知れない」と、うまい事を云うてゐられる。

◇フリーメーソンの象徵

このフリーメーソンのシンボルを、二ツ三ツ申し上げます。

彼等はコンパスをもつて居る。これはまるい圓と云ふ事を示すのであつて「天」或は「精神的な」と云ふ事を示してゐるのであります。今一ツは直角定規を使用してゐる。定規は何であるかと云ふと、道德を意味してゐるのでありまして、行爲の正しい、規矩の「矩」であります。それから普通に彼等が持つてゐる徽章には、コンパスと定規が組合せてあります。これは物質と精神兩方面と云ふ風に、彼等は解釋を與へてゐるのであります。今日私は物好きにもつて來て居りますが（實物を示して）これは單に見た丈ではなんの變化もないが、動かしてみると恰度コンパスと定規が組合された眞中に、英語のGの字が現れる樣になつております。その他色々な象徵もありますけれども、まあこれ位にしておきませう。

◇二つのフリーメーソンと其の標語

然らばこのフリーメーソン祕密結社は、如何なる事をモツトーとしてゐるか、これを申し上げますには、フリーメーソンの二大別を申し上げなければならない。即ち最初イギリスで出來て、それから大陸に渡つたのでありますが、今日に於ても英米流の「フリーメーソン」と、大陸流の「フリーメーソン」の、二つに別れておるのであります。

モツトーとする處は、英米流の方は友愛慈善と、眞理とか云ふ風になつて居ります。よく色々な慈善團體みたいな事を彼等はよくやつております。これはキリスト敎の牧師

ロシアに於て自由・平等・友愛を掲げて革命を遂行したその折用ひたポスター

達が、よく先に立つてやつてゐるのであります。決して先生等は、本當に祕密の眞髓まで行つてゐない。さう云ふ先生等が、多いのでありますから、この邊でやつてゐるのは表に見えてゐるところは、さういふ友愛、慈善、眞理と云ふ樣な事であります。最後は何であるかと申しますと、共和國の建設といふ事になるのであります。

大陸フリーメーソンの方は、英米フリーメーソンに比して急激であります。目的はやはり「上になつてゐるのを、下の方に持つて行かう」「君主政治であるものを、民主政治にしよう」と云ふので、どつちも同じ事でありますが、英米フリーメーソンの方は、これに時をかけて徐々に行かうといふのです。この運動はエボリューション即ち變遷で行かうといふのであり、いつの間にか段々君民同治論になつて、それから遂に民主主義になると云ふ具合に、仕樣と云ふのであります。

大陸フリーメーソンの方は、一擧に君主政治を民主政治に覆して了ひ、革命によつてやらうと云ふ、所謂急進的なレボリューションであります。英米フリーメーソンの方は一見非常に穩健であつて、害がない樣でありますけれども

然しながら達せんとする目的は同じであります。各國の君主を廢し、さうして猶太の金權によつて、支配する事になる點に於ては、どちらも同じ事でありませう。

大陸フリーメーソンの方の標語は、自由、平等、友愛と云ふ三つの合言葉で此の方が此の頃日本などに繰り返されて居るのであります。

◇フランス革命と祕密結社

英米フリーメーソンの方は、又餘りよく人が知つておりませんので、この方は比較的害も少いと思つておりますから、革命的フリーメーソンの方の標語に就いて、聊か論評を下してみたいと思ひます。これは今日の社會を正狀に歸せしむる上に於て、私は非常に必要だと考へてゐるのであります。

自由、平等、友愛、これがロシア革命を結果した赤旗でありますが、その赤旗にかいてあるのが、これが自由、平等、友愛と云ふ字です。この三つの言葉を使つて、革命をやつた第一回は何處であるかと云ふと、これがフランス革命であります。世の中にはフランス革命といふのは貴族、僧侶、富豪が非常に橫暴を極めたので、その結果自然に起つたものであるといふ風に、考へてゐる人もありますけれども、なかなかそんな簡單なものではないのでありまして、その革命を勃發に導いた點については、フリーメーソンの隱れた努力が非常なものでありました。

フリーメーソンの教科書を見ますと、明かに彼等が告白してゐる「吾等は非常な努力をして、フランス革命をやつたのだ」と言ふ色々な實證を十五項程あげてゐますが「革命をやつた幹部は即ち吾々の結社員である」といふ事を明かに述べてゐるのであります。又一千九百二十一年のグラントリアンの決議錄を見ますと、あの中にも「曾て千七百八十九年のフランス革命に最も大なる役割を演じて、フリーメーソンは何時でも、來るべき革命に幹部を供給する準備がなくてはならぬ」と明言して居ります（千九百二十二年十月グランド、ワッチの決議錄二百八十一頁）、諸君之が即ち大學教授初め學生やインテリを共產黨に引入れる指令の原泉であります。

又同じ結社の決議錄の二百三十六頁には「今日迄國家革命を以て人道の爲に盡して來たフリーメーソンは世界革命と稱する大革命をば爲し遂げたいのである。此の世界革命

こそフリーメーソンの明日の事業である。」と申して居ります。

諸君彼等が平和の美名に隱れて窃かに世界大戰を準備して居りますのは實に二三年の後に世界に大亂を起し、其後世界革命をやらうとして居るのであります。

私がシベリヤにおりました頃、ロシアの革命家と話しますと「フランス革命が出發點で、御手本であるから、吾々はその眞似をしてそれに改良を加へてやつてゐるんだ」といつておりましたが、これは彼等の僞らざる告白であります。フランスに參りますと寺院、官衙、學校、裁判所の壁にはフランス革命のモットー「自由、平等、友愛」の三字が刻み込んであります。それは革命成立の時、直ちに秘密結社の奴共が、さう云ふ風に彼等が到る所にこの文字を刻み込んで、これでやつて行かねばならないといふので、强壓的にやつたのであります。

◇自由と云ふ言葉

然らばその自由と云ふ事が、一概に惡るい事であるかと云ふならば、決して自由といふものが、全部惡るいのではないのであります。けれどもそれをよく分解して、善惡を判別して行かなければならない。

總て昔から「吾に自由を與へよ然らずんば死を與へよ」とか、又「板垣死すとも自由は死せず」と云ふ様な言葉を使つて、自由と云ひさへすれば、もうこれが人間の最後のものであるとし、これがためには何をやつてもいゝと云ふ風に、この自由が讃美されつゝあります。然るに「自由とは何ぞや」と云ふ問題を出して、研究して見ますと、本場のフランスに於ても、隨分色々な階段があります。

私は、上は大統領に近い人達から、幼年勞働者に至る迄種々な階級の人々に、色々質問して「君の國には、到る所に自由、平等、等と書いてあるが、自由、平等とはどんな意味か、自分にはわからんから知らせてくれ」と、先づ無智識階級の者にたづねてみた。すると「自由とは總て自分の欲するところをなす事が出來るのが自由である」即ち「自分の意志に對する最高の權利を持つてゐるんだ」と解釋してゐる。これは自由でも放縱に近いのであります（笑聲）。

即ち彼等の稱する自由とは、何等自分の意志を制肘するものではないのであります。

ところがもう一つ上の人にきいてみると「それはちよつと酷すぎる、自由とは禁ぜられざる事はすべて爲す事が出來ることである」と申します。そこでもう一つ進んだものに聞いてみると「許されたる凡てのことを爲し得ることである、人間には自然にやつて善い事は決まつてゐるのである」と云ふ答だ。今度は一番進んだ上の人に聞きますと「許されたることの中にも尚ほ選擇すべきことがある、人間には道德と云ふものがあるから、道德によつて行動するのが自由である」と云ふのでありました。

これはわかり易く物にたとへて申しますと、第一のは人の屋敷であらうが、人の畑であらうが、そんな事は構はない。向ふにまつすぐ行かうと思へば、何處でも構はず通つて行つて仕舞ふと云ふのが、一番ひどい自由であります。

その次の自由は、禁ぜられて居る事はいけないけれどもその他は全部自由だと云ふのでありますから、物にたとへれば、人の畑である事は判つてゐるが「無用の者入るべからず」と禁ぜられて無いから通り拔けるのであると言ふのである。如何なる方法で金を儲けようと、又之を如何なる方法で散らさうと、法律に違はなければ、差支ないとするのであります。（笑聲）

その次の許されたる事を爲すと云ふのは、例へば道路と云ふものは、人間の通る様に出來てゐますから、中を通つても右を通つても左を通つても、一向差支ないと云ふのであります。

最後のは、同じ道路の通行でも自分の自由ばかり考へる譯には行かぬ人様にも自由があるから之を尊重するのであります。即ち道の中でも最も道德的に克明に道路規則を守つて通つて行かう」と云ふのであります。

只自由と云つてもこれ丈けの相違があるのであります。これを全部混同して仕舞つて、玉も石も自由と云ふ名をつけたら、實に迷惑千萬で他の自由が泣きます（笑聲）かう云ふ風に自由と云ふものは、皆好いんだとして仕舞つたのが間違ひであり、非常に弊害が起きて來るのであります。

フランス革命の時に、マダム・ローランと云ふ婦人がありまして、女だてらに革命黨に入りまして、幾多の人を斷頭臺（ギロチン）に送りましたが、因果はめぐる小車の如く、おのれ自ら又他人のために讒謗を受けて、投獄される番が廻つて來ました。そして遂に死刑に處せられる日が參りまして、

パリーの革命廣場にあつた斷頭臺を上つて行きました。最後の一段を登りつめて、ギロチンの前に立つた時、處刑官が「マダム・ローラン、何か言ひ殘す事がありましたら、この際でありますぞ」と申しました所、マダム・ローランは、やをら身を起しまして、側にある所の自由の女神の銅像を指して、實に好い事を申しました。

「おゝ自由よ、汝の名に於て、如何なる罪惡が行はれつゝあるか!」斯く叫んで死んだ。マダム・ローランの言葉を、今日そのまゝ日本に持つて來ても、尙その通り通用します。

京都大學の瀧川教授、これを支援する心なき同大學法學部教授があつて「學園の自由だ」とか、「研究の自由」だとか、やれ何々の自由と、自由々々と囀つて、自由を盛り澤山にしまして「大學には自由があるから、政府も監督者も嘴を入れる事まかりならぬ」と云ふておりますが、國家あつての大學か、大學あつての國家か、さつぱり譯がわからない。そこらあたりの本末を顚倒した、學者先生方の頭は少々どうかしてゐると思ひます。(笑聲)

あれ等の人達は、速かに辭表を提出し、國籍を返却してアインスタイン博士の主宰してゐる、パレスタインの猶太人の大學に學ぶなりと、教授に雇つてもらうなりとしたらよい。彼處ならいくらでも、自由々々と云つてくれるのですから。(笑聲)

長野縣に教員の赤化問題が起つて居りますことは皆さん御承知と存じます。警察の道場は、劍道も柔道も、出來ない。檢擧された赤い教員達がギッシリ詰まつてゐるそうです。それは一體どういふ譯であるかと云ふと、或人は純然たる物質的の解釋をしてゐる。と云ふのは「あすこは生糸が盛んで、蠶業は巳に農民の副業では無くなつて、本業になつてゐる。それが繭價の暴落で行詰つて仕舞つて、あすこに暴動が起らなかつたのは寧ろ不思議だ」と大新聞の社長が云つておつた。そうすると共產黨さわぎが起つた位はあたり前だと言ふことになります。然し私が此の前その地に行つて調べて見ますと、そう云ふ物質的の事柄は、その極く少部分を占めてゐて、その根本に於て非常に誤れる自由教育が――放縱即自由といふ思想によつて教育が行はれこれがそも〳〵の事の起りの因を、なしてゐるのであります。そして第一回檢擧の時共の地方で赤い青年十一名が擧げられたのですが、この十一名の赤化青年は、全部往年共

の地方で行つた極端な自由教育を受けたものばかりでありました。そこで一體自由教育つて、どんな事をしたかと云うて調べてみると、それはなか〳〵振つた事をやつてゐるのであります。

先づ學校の先生の教授の自由でもつて、「教科書と云ふものは持つて來なくてもよい。その時々の氣分でもつて教へれば好いんだ」と云ふのです。

次に生徒が席につくにも亦、自分の氣分本位で、先生の方を向いても、後を向いても、窓を眺めても、窓を背にしてもどこでも善い、マルで動物の集まりであつた。(笑聲)から云ふ隨分思ひ切つた自由、はき違への放縱なやり方をやつたのであります。

或時學務部長が餘り酷いと云ふので、見廻りに來た所が受持先生とても怒つて仕舞つて、教授の自由を束縛すると云ふので――授業中に他人なんか入つて來たんでは、折角の氣分をぶちこはして仕舞ふと云ふので、校庭に飛び出して仕舞ひ、學務部長が出て行つてから、叉歸つて來て、教に出したと云ふ事を聞きましたが、これが即ち「自由は即ち放縱」「放縱は即ち自由なり」でありまして、これで初めて先刻申しました、猶太人が「他の民族は人間に非らずして獸類なり」になつて仕舞つた譯であります。(笑聲)

十數年前でありましたが、理想團と云ふ無政府主義系の團體がありました。その憲法なるものを見せてもらひましたが、その中にから云ふ事が書いてありました。

「吾等同人は、如何なる場所と、如何なる場合とを問はず生理衞生上自然的に起る行爲は、これを遠慮する必要を認めず、例へば欠伸、伸び、放屁、放尿等々」とわざ〳〵但し書をして書いてありましたが(笑聲)實にこれで初めて獸類の仲間入をするのであります。(笑聲)

これは要するに、フリーメーソン祕密結社がたくらんだ事であつて、かゝる放埒極まる誤れる自由觀念を鼓吹して、人類の道德程度を低下せしめて、人間を獸類たらしめんとする彼等の手段であります。これは決して私が客觀的に見て、斯く批判するのではなくて、彼等の書物の中に、チヤンと書いてあるのであります。

◇メーデーとイルミナチー

今から何年前に當りますか、日本でもメーデーを初めま

したが、メーデーの本當の起原は、一千七百七十六年の五月一日であります。獨逸のバイエルン州ウイルヘルムスバツトに、イルミナチーと云ふ、啓蒙主義の强烈な祕密結社が出來た、これが本當のメーデーの起原であるのでして、鈴木文治君の云ふのは、第二の起原で百十年後であり、一千八百八十六年の五月一日に、アメリカのシカゴその他に於ては、八時間勞働制を叫んで、勞働者が騷いだ。その時うまく效を奏したから、それで五月一日が非常に目出度い日だと云ふのでメーデーとしましたが、これをもつてメーデーの起原とすると云ふのは、非常な間違ひで百十年おくれてゐる。

このイルミナチーと云ふのは、隨分思ひ切つた結社でありまして、こゝでは死を人間の最後とした、無魂說を主張したのであります。從つて忠君愛國と相容れざる極左の思想で、愛國心を打ち壞し、總ての「君主、王族は要するに暴君なり」と云ふのであります。フランス革命の出陣の歌といふやつにも「暴君よ地下に引込めよ」といふ事がありますが、これはみな彼等フリーメーソンが「君主を以て暴君なり」と稱するのであります。

社會主義の一般が、皆これでありますが、これは皆、このイルミナチーから來てゐるのであります。

彼らはダビテの後裔の他は、地上に支配權を振ふ事はまかりならぬ。その他はみな暴君なり。僣王なりとして仕舞ひ、兎に角に猶太人から出なければ、ならないと云ふ事を彼らは云つてゐる。

彼等は「吾等は世界的自由平等を建設せんとす」と稱しこの思想が後になりましてから、第三インターナショナルになつたのであります。そして彼等はその準備として「總ての宗教、道德を根こそぎに破壞すべし」と唱へて居ります。日本のもつて世界に誇るべき家族制度も、勿論破壞すべしと叫んでゐます。瀧川教授の如きも「間男は勝手たるべし」等、その他色々な道德を破壞する事を平氣で云つてゐるのでありますから私が云ひます樣に彼等が道德程度を下げると云ふ事は、自然にそうなつて行くのではない、計畫的にやつてゐるのであります。世界を統治する上に於て實に手のつけられない、只もう一にも金、二にも金といふ風に、金が生活であると云ふ樣な、低級な人間を造つて、恰度犬や馬を馴らすには、うまいものを投げてやつて、な

づける事が出來る樣な具合に、只物質をもつて、吾々人類を、彼等が存分に引き廻そうと云ふ腹があつてやる所の、仕事であります。この强烈なるイルミナチーと云ふのが、スパルタカス團の元になつてゐる。これが本當の過激派の元であります。これに主義とか、色々の學說をつけたのは彼等の政策に過ぎないのであります。次の世界大戰には、更に彼等が先般の世界大戰に打ち壞し得なかつた、帝王政治の國を破壞せんと、種々樣々な努力をしてゐるのであります。それが準備として、只今申し上げました樣に、人類をして自由と放縱とを履き違へさして、獸類の仲間入をする者を、多く造る事を心掛けてゐる譯であります。御覽下さい。世上滔々として、彼等の仕掛けた陷穽に、陷るとも知らず、この自由と放縱とと誤認し急速度で獸類化しつゝあるではありませんか。而してその弊害は、正に顯著なものがあるのであります。

◇學校教育の前途

東京の西の方で、學校騷動を起す、何とか云ふ學校がありますが、そこに自分の子供を託そうと思つて、行つて見た事があります。そうすると先生が教授をしてゐない。私が「今は何の時間でありますか」ときくと「今は博物の時間でありますが、學生の自發的な、研究心を尊重してゐるのであつて、別に講義などはしない」と云つてゐた。そこで教室に伴はれて行つて見ると、みな自習をやつてゐた。そうすると中に一人の生徒が、博物の時間であるにも拘らず數學をやつておつた。すると先生が「某君、君は數學をやつてゐるのか」ときゝましたが「何俺は數學をやつてゐるんだ」と云つた。（笑聲）

これではどつちが先生だか生徒だか判らない。（笑聲）又先生も先生で、善いとも惡いとも、うんともすんとも言はずに、風の如くに出て行つて仕舞つた。（笑聲）これぢや子供を託する譯には行かんと思つて、私はやめましたが、そこの主事の云ふのには「こせ〳〵しない、のんびりした人間をつくるのが本校の目的である、それで生徒の自由に任せ個性を傷めない樣に極めてのんびりさせてゐるんです」と云ふ事でした。こせ〳〵しない線の太い人物は、確かに必要である。が併しかゝる教育法では、絶對に主事さんの云はれた樣な人物は出來つこはないのであります。子供なん

てものは育て方一ツで、どうにも成るものであります。これに誤れる自由即ち放縦の教育法をしたつて、徒らに野放圖なグータラが出來る丈である。だからこんな野放圖な、木偶の棒が社會へ出ると、教科書とはちがつて、正に生きた社會の現實に直面するから、彼等はやつて行けそうな筈はない。そこでおきまりの「社會は矛盾だらけだ、打倒資本主義――吾等に自由を與へよ！」とやり出すのであります。これなんぞも誤れる自由觀念が、如何に社會に害毒を流すかといふ、一つの適例であります。

◇自由と平等の矛盾に就て（ゲーテの話）

次に自由と平等との關係に就いて一言致したいと思ひますが、自由と云ふ事は垂直のものでありますし、平等と云ふ事は水平なものであります。自由を貫かんとすれば、平等を一時止めなければならない。平等を貫かんとすれば、自由を抑壓せねばいかんのであります。さればフランス革命の五十四年前までは、自由主義の祕密結社と、平等主義の祕密結社が、始終叩き合ひをし、喧嘩計りして居つた。それをフランス革命の三十五年前に、ユダヤ人マルチネ、パスカリースと云ふ祕密結社員が友愛會と云ふ祕密結社を拵へて、その友愛會で、自由主義と平等主義が喧嘩しておつたやつを、つゝかい棒をかつて、三つの思想にして、そのまゝ今日まで來てゐるのです。夫等のいきさつも知らずして、單に自由、平等々々と鸚鵡返しに唱へてゐる所の、所謂思想家や、三文文士や、靑二才の哲學者などは、餘程考へ直さなければならないのであります。

有名なファウストを書きました、ドイツのゲーテは、新進の社會改造論者に對して「自由と平等とを、同時に與へようと云ふ人間があるならば、これは餘程の拔作か、然らずんば餘ほどのインチキな代物である」といふ事を申しておりますが、未だ今日になつても、鈴木文治君なぞが「自由平等の新社會を建設せんとす」なんて云つてゐますが、ゲーテは草場のかげで「なんてわからない奴がゐるんだらう、あれだけ云つてもまだ判らないのか」と泣いてゐると私は思ふのであります。（笑聲）

イギリスの總理大臣マクドナルドは「吾々は自由を主とするんだ、而して平等はその實現の爲の手段だ」とお茶を濁しております。これに就いてはロシアの實情を御覽になるとよくわかる。

自由、平等、友愛と云つてゐながら、何處に自由があるか、日本の赤化したものはよく無產新聞などで「言論の自由、集會の自由、結社の自由を獲得せよ」とか云つて吠えて居りますが、又一方に於ては「吾等の祖國ソヴイエート、ロシアを護れ」などゝ云つておりますが、一體彼等が護らんとするソヴイエート、ロシアは、如何なる自由があらうか、彼等には自由はない。言論の自由はない、ロシアにはプラウダを始め、約百四十程の新聞がありますが、政府の機關新聞に非らざれば、半官報にすぎないと云ふ有樣であります。それでありますが故に、政府に對して表面に攻擊をし、若くは共產主義の批判をすると云ふものは全然ない。彼等はフアツショに反對などと云つておりますけれどもフアツショ以上の自由の抑壓であります。

◇イルミナチーと子供の問題

ロシアの南方にある、ハルコプといふ所で、數年前共產黨員が議長席につき、そしてある議事をやつた事があります。その時にその提案に對して――決議案に對して、贊否の意見を投票に問ふて見た所が、贊成廿五名、反對卅六名といふ結果になりまして、明かに十一名反對が多い。それをちやんと議長の共產黨員は勘定して置きながら、「贊成多數と認め本案は可決致します」と宣言した。所が一人の議員が「異議あり」と立つた。共產黨員の議長がその顏をのぞき込んでから「黨の規則によつて貴公に沈默を命ず」とやつた。これが本當に、鷺を烏といふて通すのであります。本場のロシアで、言論の自由が束縛される事、正に斯の如く著しいものがあります。而も、その議員は閉會後、議長の前に呼ばれて「君あゝいふ事をしてくれては困るぢやないか、そりや皆が異議を唱へ出したら、わしも何とか考へ直さねばならないが、唯も默つてゐたんだから、黨員たる君が眞先に反對したりしちやいかんね」と御說敎を喰つてゐる（笑聲）。ロシアは今や、そうした自由は斷然ありません、只あるものは結婚、離婚の自由であります。これ丈けは確かに自由が認められるのでありまして、以前は宗敎上の儀式に隨ひ、神樣の前において誓つた以上は、人間の淺はかな智慧をもつて別れたり離れたりすべきでないと云ふ樣な事でありますが、それが今は簡單に結ばれ、簡單に解消される樣になつたのです。これもフリーメーソンの

つけ所で、家族制度を破壊し、結婚尊重の風をなくし、斯くして人類の縦の文明を壊はそうと云ふのです。

そこいらで懇意になつた男女が、一ルーブルさへ登記所に持つて行つて「兩人合意の上で結婚しますからどうぞよろしく」と云へば、それでよい。一ルーブルと云へば、日本の金に換算して確か十何錢位。それだけあればよいのである。（笑聲）又結婚を解消したければ同じ所へ届け出ればよい「どうも昨日結婚した女はとんだ莫連者で……一緒になりましたが解消したいと思ひますから、どうかよろしく御願ひいたします」それ丈でよいのであります。（笑聲）ところが近頃は取消す者が、片一方行けばいゝ事になつてゐる。即ち離婚は一方的意志で成立するのであります。所が玆に困つた事が出來て來る。それは因果應報で、出來た子供の仕末であります。（笑聲）初めの間は政府が育兒院を建て、これに收容してゐたが、次から次へと生れて來るので幾ら建増しても追ひつかなくなつて來た。そこで生れた順番で、一ケ月なら一ケ月、三ケ月なら三ケ月で、手數のかゝる順で二人の赤子に褓母一人とか或は三人に一人とか云ふ風にして、褓母の數が違ふのであります。まるで蠶の一眠、二眠と同じ様なものであります。（笑聲）丁度こんな風に人間と云ふものを、親の手で育てると云ふ事をやめるのでありますが、正にイルミナチーの綱領通りになつて來てゐるのであります。

然しこれでも、やつぱり費用が出なくなるから、これを制限さすか、或は金を少し餘計もつてゐる者に養はすかと云ふ事になつて來た。この頃ロシアの民事裁判の八分通は私生兒認知問題で占領されてゐる。子供が出來ると婦人から法廷に訴へる、さうすると裁判所から、其の女に關係した候補者に呼び出しを發する。一々日記につけてあるからすぐわかる。呼び出された候補者の中で、チャンと財産が調べられてあるから、一番金の餘計ありそうな者に「お前の子であるぞ」と押しつけて仕舞ふのであります。（笑聲）勿論ロシアだつて、現の候補者と子供の血液を採つてみて醫學的に親子である事を、立證せしめる事は出來るのですが、今の様な譯で、一ツの政策上、無理に押しつけて仕舞ふのであります。その男は仕方がないから、ブー〳〵云ひながら、さげて歸るのであります（笑聲）親としても「たつた一夜の交りから、本當に自分の子供か何か得體の知れ

ぬものを押しつけられて、とんでもない事になつた」といや〳〵ながら持つて歸つたのだから、子供に對して愛情がありそうな筈がない。又子供も親に對して、孝行する氣遣は斷じてありません。（笑聲）

これは人類社會に取つて最も戰慄すべき事であります。斯くして人間の品性は引下げられ、人類文化は獸類文化と化して仕舞ふのでありませう。即ち一つのゼネレーションと次のゼネレーションの間には日本の三代一人の理想の如き連鎖は無くなり、人類社會は只紙を積み重ねた様なものに變歪されて仕舞ふのであります。吾々が共產黨排擊をするのは金持擁護ではなく、人類文明を擁護せんが爲であります。

◇フリーメーソンの東洋進出十年と支那の領土保全

扨てフリーメーソン祕密結社の魔手は、斯くして世界的に、延べられてゐるのでありますが、玆十年以來東洋に對して、彼等が如何なる政策をとつて來たかを知る事は、今後の日本人にとつては、特に必要かと思ひますので、それを曝露してみたいと思ひます。

彼等の目的とする所は、露支を打つて一丸とした、經濟ブロック（組織）になし、更にその上に印度を加へて、世界總人口の約半數を、ボルシエヴイキに組織化して仕舞ふ、と云ふにあつた様でございます。私が國際聯盟から歸りました昭和二年頃には、フランスの共產黨の代議士であり、猶太人であるドリオなどは、それを不用意にも、告白しておつた様であります。彼等のかうした目的を達成せんがためには、どうしても支那の領土保全が必要であります。

支那に資本國家の、しつかりした勢力が設定されてゐると、露支を打つて一丸とする計畫には、必ず蹉跌を來すから「支那に存在する前世紀以來の、列强の勢力を次第に驅逐しよう」と云ふ事を彼等は企圖してゐた様であります。然して支那には、どんなヒョロ〳〵したのでも構はないから、一ツの政權を拵へて、それを各國が支持して行く、といふ方針でやつて來てゐる様であります。これが即ち排英排日の根本原因であとの經濟的原理などは寧ろ彼等が造つた第二次的のものと堅く信じてゐます。而してこれが九ケ國條約となり、更にその後幾多の事實が具體化して參つた

譯であります。

若し本當に彼等が、支那領土の保全を希求するのであるならば、今日迄に吾々の斷じて看過する事の出來ない、二方面が御座います。

その一つは、大正十年頃ロシアの反革命家のバロン、ウンゲルン將軍が戰に破れて、外蒙古に逃げ込んで來た時、勞農政府では奇貨措くべしとなして、大軍を進めて首府庫倫を侵し、赤旗を押し立てゝ、恰もソヴイエート聯邦の一部でもあるかの如く、外蒙古を取扱つてゐる。

然るに國際聯盟は、この事實を見て見ぬ振りをして沈默してゐる。何故文句を云はぬか、而して何故米國なども、この九ケ國條約の精神に違反するソヴイエート聯邦の行爲を十ケ年間も打棄てておくか、と云ふ事であります。

それからもう一つは、何であるかと申しますと、それは揚子江の上流には蔣介石の政府に反對して、起つてゐる所の、共匪が漸次猖獗を極めて、今では四十萬に達すると云ふ話であります。これに對しては蔣介石と雖も、如何ともする事が出來ない。最近に至つては中華民國ソヴイエート共和國といふ政府を拵へて國家の中に更に國家を建てた。それを何故國際聯盟は默つてゐるか、米國は知らぬ顔をしてゐるかと云ふ事であります。

◇聯盟と共産組織
滿洲獨立と聯盟

然しこれは、フリーメーソン祕密結社から見れば、支那も早晩、ロシアと同じ組織に、しようと云ふのでありますから、早手廻しになる事だから嚴しく云はない。然るに我國の如き强國が、滿洲國の獨立を援助してやるといふ事になると、これは彼等にとつては大問題だ。これでは露支を打つて一丸とする所の話ではない。ロシアと支那の中間に確固たる楔を打ち込む事になるのであるから、彼等はどうしても承認する事が出來ないと反對する所以であります。外蒙古の赤化であるとか、長江上流に、ソヴイエート共和國と云ふやうなものが出來たことは、彼等から見れば、寧ろ歡迎すべき事であるに相違ない事は、這般の消息さへわかれば、肯定し得られると信じます。この露支の關係を洞察せずして、小策を弄する樣な事があれば、ひどい目に遭ふのであります。

私は我同胞の出來損ひである片山潛君と、明治三十五年に、一堂に會して語つた事があります。あの先生が、モスコーに居つて「支那より手を引け會」即ち「對支不干渉」といふことを標語とする機關を造り、その長になつて居りますが、これが即ち九ケ國條約に云ふ所の、支那領土保全の原則と同じ事である。

支那に列國が干渉せずに置けば、段々と赤化するのであります。これは實に重大な點でありまして、恐らく吾々はこれから國難を打開して行くに就いて、露支兩方面を見なければなりませんが、その間に一貫した國際聯盟なり、或は米國の祕密結社なり、色々の方面で列國の干渉を喜ばぬと云ふ、暗礁の存在する事を知つておらねば、或は失敗するのではないかと思ひます。

◇日支紛爭の內情密話
國際聯盟と日支の謀約

次に今回の、日支紛爭事件の前に、如何なる出來事が、吾々の眼に映じたかと申すと、今より數年前から、國際聯盟事務局の、重要役員の衞生局長、ポーランド生れの猶太人ライヒマン博士が、支那の衞生狀態を改善するといふ名目で、毎年支那へ出かけておりますが、何しろ前科者ですから(笑聲)先生のやつておつた事柄は、決して衞生ばかりではない樣であります。猫は鼠を取るべく飼つてあるが、然し目の前に松魚節なんかおいておけば、必ず失敬して仕舞ふ。好餌が鼻先にぶらついてゐるのを、どうして彼が見逃しませう。

それから今の聯盟の事務總長の、フランス生れの猶太人アブノール君も來てゐます。それから國際聯盟の勞働事務局長で猶太人のアルベル・トーマ君は、田中內閣の昭和三年十二月五日來朝入京し、一月五日に神戸から歸りました。その時彼は朝野の歡迎をうけ、畏くも宮中に於て拜謁を仰せつけられて居ります。このアルベル、トーマ君が、日本からの歸りに支那を視察して居ります。

その後も大物が絕えず往復して、支那を指導してゐる。殊に事變勃發の年、即ち一昨年二月には、殆んど支那專門にライヒマン君が參りました。

◇王正廷と結社の後援
滿洲事變と國際聯盟

昭和六年に、支那の外務大臣王正廷が、郷里の浙江省慈谿縣と云ふ所で、政談演説をしましたが、その中に「今年は失はれた國權を回復するの年である。外人居留地の回收不平等條約の撤廢、領事裁判權の撤廢、内河航行權の拒絕等々、殊に日本に對しては、南滿鐵道守備兵を撤廢せしめ南滿地方の主權を回復せしめる。然して若し日本が應じない場合には、一貫せる作戰計畫を樹立し、軍器糧食を用意して、一戰を交へるの覺悟を以つて、かゝつたならば、日本は必ずや屈服すべし」と云ふ意味の御託宣をして居りました。この王正廷の演說の骨子は、滿鐵と南滿洲とを回收すると云ふ事でありますが、これは決して支那獨力で、出來る仕事ではなく、背後に聯盟その他の秘密結社の援助がある事は、前述のライヒマン、ソルターの動きに徴して見れば、明かに看破し得られるのであります。

元來この王正廷とは、如何なる人間であるかと云ひますと、彼は米國仕込であるかも知れぬが、又大の猶太崇拜者であります。私はある方法によつて、猶太人の機關雜誌を見てゐますが、その雜誌に王が軟弱外交であると云ふので學生達に袋叩きの厄に遭ひ、外務大臣を罷めました時、猶太民族が王氏の退職を惜しむの云ふので書いた一文の中に「王さんは實に吾々民族に對して理解あり、同情ある人である。嘗つては斯ういふ手紙をくれた」と云ふ全文がありますが、その中に「アイ・ハイリー・アドマイヤ・ゼ・ジュウッシュ・レース」と云ふ樣に、實に手離しで徹底的に禮讃してゐる樣な人であります。これを思へば猶太人が王さんを引張りまわすのは、實に易々たるものであつたらしいと思ひます。

そう云ふ空氣でありますから、ライヒマン君及びその時聯盟の經濟部長を罷めて來たソルター君が、支那に躍つてゐたのでありますから、共に眉唾者たる事は申す迄もありません。

そのソルター君が、今支那の經濟十年計畫と云ふものを樹立して指導してゐる樣であります。勞農ロシアの最初の五ケ年計畫が殆んど完成に近づいたと云ふので、第二次五ケ年計畫を樹てようといふ時に、南鄰支那に十年計畫を樹立し、そのつなぎを付けようとしたのであります。

彼等が國際聯盟から出張して、しかく支那を誘導する樣になつてから、却つてます／＼事件が、滿洲に於て頻繁に

發生する樣になつて來ました。或は滿洲の四平街附近の線路に、石を積んで列車の轉覆をはかり、或は徹宵夜番してゐる處の忠勇なる我守備隊に、秘かに接近して行つて、暗殺すると云ふ事が、頻々として起つて參りました。その惡戯の最も甚しいのが皆樣御承知の九月十八日の柳條溝の大爆破事件であります。

◇米支密約と日支關係

茲に特に吾々が、忽諸に出來ない重大問題があります。已に新聞紙上で御存知の、例の米支密約問題であります。米國は日本と戰ふのには、空、海兩方面から行かなくては勝目がないのであります。目下盛んに大平洋上に、米國大西洋艦がのさばりだして示威運動をやつてゐますが、併し、あの大艦隊を引き連れて、日本を襲ふ事は出來ません。それは決行して幸ひに我國に(そんな事はあり得ないが)勝ち得たとしても、米海軍の戰鬪力が夥しく殺がれて仕舞ふ。然るに今や歐洲の天地はドイツの賠償金問題を中心に非常な危機を孕んでゐる。米國が日本と戰つてそんな事にでもなれば、老獪な英國がほくそ笑みて、その野望は完全に伸ばされ得るのは明かであります。だから空からやつつけるに限ると思うてゐる。それには航空母艦に武裝した爆擊機を搭載して、日本を襲ふ事も一方法でありませう。然し事實そんだけでは大した脅威にならないし効果的でもない。そこで陸に飛行場を――日本を空襲し得る所に持つ事が必要となつて來るのであります。

この必要に應ずるのが米支密約であるのです。これは米海軍の航空母艦が日本の極く近くの支那本土に上陸したと云ふ事になるので、殊に御承知を願ひたいのであります。つまりかうした事實は米國の飛行場が、支那沿岸に福建、廣東、浙江等に五つも出來、米國からどし／＼飛行機を購入して本年中に三十八機になる相であるが、三年後には千二百機に及び、日米戰の未來に大脅威を加へる事にしてゐる。これは日本に取つては重大問題である。空襲の脅威を、百パーセント受ける立場に日本はおかれてゐる。

◇航空熱と實行の必要の理由

これに對抗するには、日本にも優秀なる飛行機を多量に持ち、敵の根據地を、一擧に殲滅して仕舞ふより仕樣がな

い。臺灣あたりの飛行場は、うか〳〵してゐると、逆に叩き潰されて仕舞ふ。

この間の帝都防空演習位で「さあ参れ」なんと思つてゐたら大間違であります。あれは最後の手段であります。敵機を我日本國の上空に入れる様な事では駄目である。それにはどうしても飛行熱を盛んにしなくては駄目である。愛國機の献納によつて飛行機の方は少いまでも出來る。又産業工業の總動員をすれば相當の數を造り出す事が出來る。

然しすぐ間に合はないものは飛行士であります。機體は消耗品であるから、使用すれば傷む、又悪くなります。然し飛行士は練習すればする程うまくなる。米國の民間飛行家數と、日本のそれとを比較する時、蓋し思ひ半ばに過ぎるものがあります。早く航空熱を出してやらねば誠に心細い。そのためには愛國飛行場の献納と云ふ事を、可及的に多くやつて頂きたいのであります。飛行場が出來れば自然空の守りに對する理解も培はれてゆき、そこから立派な空の勇士も出ようと云ふものであります。昭和青年會では、神本君の書かれた「擧國制空」と云ふパンフレットを出して、かね〳〵その方面の輿論を喚起すべく、奮闘されてゐるが、是は誠に時宜に適した結構な事だと存じてゐます。吾々日本國民は、今や全部起つて擧國一致、この迫り來る國難打開に力を致さねばならぬのであります。

◇日本精神と共産黨

これには貴賤貧富の別なく、擧國一致と云ふ事が極めて肝要であります。然るに共産黨は、この擧國一致を妨げ、この國論を分離し、軍閥を衆怨の府にしようと考へて、色々と策動を逞うしつゝあるのであります。又共産黨と相呼應して、動もすれば實業家の方面をも迷はし、國論分裂の原動力にしようといふ様な事を、フリーメーソン秘密結社は策してゐるのであります。この間、社會大衆黨が、本所の公會堂に於て、國際聯盟脱退の演説を致しましたが、これ等の連中は「飽迄も軍閥を憎悪し、之を衆怨の府として片付けよ」と云ふ指令に依つて動いてゐるのであります。

◇バーセル會議とユダヤ人解放の三大策

明治三十年、即ち西暦一千八百九十七年八月二十九日、

三十日、三十一日、この三日間瑞西のバーゼル（近頃國際決議銀行の所在地となつた）と云ふ所に、猶太人が第一回のシオニスト會議を開催し、猶太民族の問題を色々謀り、各種の決議をしたのであります。この事を本當に御諒解を願ふためには、前世紀末に於ける猶太人解放の三大策といふ。云はゞ廿世紀の事業計畫といふ様なものを申上げる必要があるのでありますが、時間の都合上、簡略なところに止めさして頂かうと存じます。

先づその席上、第一論者は申しました「猶太人は全世界に一千三百五十萬人ゐるが、その中一千萬人が波蘭を中ばとして、ロシヤとオーストリアとドイツの三ケ國に居住してゐる。殘りの三百萬人が主としてアメリカにゐるのであるから、その一千萬人の解放さへすればよい。勿論、露、獨、墺の三國は有名な軍國主義、帝國主義の堅固な國々だから、その政治組織を破壊するは容易ではないが、成功すれば猶太民族の目的は大半達成するのである」と主張したのであります。

第二論者は主張して曰く「第一論者の云ふ所は壯快だけれども、多分の危險を伴ふものである。吾々は何處の國でも善いから、土地を獲得して、そこに國が出來さへすればそれを根據として、色々の策動となす事が出來るから、先づ國を得る事が第一だ」と云ふ事を提唱してその結果、今の英國保守黨のオースチン・チェンバーレン氏のお父さんが、外務大臣をしておつた頃、「アフリカのウガンダをやらう」と云ふ事になつた。第二論に屬する先生達は、とびついて行つたが、その他の猶太人は「そんな奥山で、ホッテントットの住む様な土地は駄目である」と云ふので、これを揉み消して仕舞つたのであります。

最後に第三論者は口を開いて「それよりは祖國パレスタインを、神様かお前達に返してやると云ふ事が聖書に書いてあるから、これを今度回復して、吾々の國にすれば、神様の豫言が全部實現する事になつて、民族の精神的復興に大なる効果があるのだから、是非そのパレスタインを回復すべきである」と論じたのであります。

このバーゼル會議と云ふのは、その第三論者の盡力によるもので、その結果四ケ條の決議が出來ましたが、問題はそれではない、彼ら猶太人は、二十四ケ條の重大なる祕密決議をしてゐるのであります。

◇シオンの議定書

その決議文なるものが、シオン議定書で大正九年六月廿日、ロンドン・タイムスに曝露されて以來、雜多の疑問が起つてゐるのであります。彼等猶太人はこれを怪文書、僞文書と云つてゐるのであります。

私はその眞僞の詮索に、餘り力を入れない方針であります。假令それが僞文書であるにしても、その中にかいてある事が、今日逐次に實現すると云ふのであれば、これを無名の書として、吾々は大いに研究して見なければなりません。

これに反し、これは確に自分たちが書きましたと、明かに名乘をあげる者が出ても、それが今日の時世と、かけ離れてゐるものなら、一顧する價値もなく、紙屑箱に抛り込んで仕舞ふのでありますが、この秘密決議に書いてある事は實に今日の時世を穿ち得て、正に妙であります。その二十四ケ條の中の第三條の一節を申し上げますと「他民族の先生は印刷にしたものだと、直ちに盲信する癖がある。眞理と見せかけて、實際は、全く眞理から遠去かつてゐる幾多の學説を他民族の中へ流布して、これによつて無産者の資本家に對する反感と怨みとをそゝるのである。此の反感と怨みとは、不景氣の到來によつて、益々甚しくなるのである。何となれば、不景氣は總ての商業取引を萎縮せしめ、工業を遂に工場閉鎖にまで、持つて行く事があるからである。あらゆる有効にして、而して人の氣のつかない各種の手段を併用し、世界に亘る大不景氣を作り、なるべく多數の勞働者を、なるべく一時に街頭に抛り出せ（即ちうんと失業者を拵へる）これらの失業群集は、極めて簡單な頭から割出し、極く幼少の時から、羨望の的となつてゐる人達の、血を流す事を面白半分に行ひ、その財産を沒收する事に努めるであらう。併し彼等群衆は、猶太人に對しては、何等危害を加へる事は出來ないのだ。何となればその暴動の始まる時期は、吾々猶太人が眞先に、これを知るから、吾々自身の防衞は、これを爲すの暇が充分にあるからである」と云ふ事が書いてあります。

私は失業問題について、つい一作年まで、うつかりしてゐましたが、大正十四年六月に第三インターナショナルの長であつたジノヴイエフと云ふ猶太人が訓令を出し、失業

委員會と云ふのを拵へておるのであります。

英國に於けるその本部は、ハツトンガーデン街の百五番地にあつて、そこで失業問題を取扱つて、段々と革命の準備をしつゝあるのであります。これは日本にも一昨年あたりから、入り込んだ樣であります。右の訓令によると、これは獨りヨーロツパのみならず、全世界に亘つて、資本主義を破壞する爲の一大基礎をなすものであると云ふ事であります。

◇日本帝國と秘密結社

斯くして今や、彼等フリーメーソン秘密結社員達は、第二の世界大戰を更に計畫し、その途上に於て、帝王政治の國體を、轉覆せんと進んでゐるのであります。殊に我日本は世界に誇る金甌無缺の皇國であるが故に、彼等の鋭鋒が只管我國に向けられ、今やひた押しにつき進んで我國を陷入れんとしつゝあるのであります。故に我は飽迄も、これに對抗する覺悟をもつて、進まねばならぬのであります。

而して我々はこれに堪え得る力があると確信するのであります。それは日本は神國であり、一貫して流るゝ所の大和魂がある限り彼等の乘ずる餘地はないからであります。

私は昨年の春三月六日に、埼玉縣の方へまゐりました時赤羽驛で汽車に乘りますと、その中に白い布に包んだ箱が三つあります。そして蠟燭や線香があげられてゐる。これはすぐ勇士の無言の凱旋であると判つたので、私は丁重な默禮をした。聞けば二月四日ハルビン南方の戰鬪に於て戰死した所の、越後の高田步兵第三十聯隊の山崎伍長以下三名の遺骨であるとの事であります。

この列車が驛々に止りますと、そこには五百人、千人或は二千人と云ふ樣な、實に多數の人達が團體をなし、或は個人でもつて迎へてゐる。大きな驛では、その中の代表者が車中に入つて御燒香する、外では僧侶が、聲高らかに讀經して回向をする。特に感激致しましたのは、寧ろ驛と驛との間に、三人五人の民衆が或は菜つ葉服を着て、鳥打帽をかぶつて、手拭を首にかけて今から工場へ出かけ樣としてゐる職工さん、又は手拭を鉢卷にして子供を背負つてゐる子守つ子、中には日の丸の旗に黑い小帛をかけて持つて來てゐる者もあつて、皆一樣に白い箱が見へると帽子や手拭を取つて丁寧に禮をする。この光景を見て、本當に尊い

姿であると考へました。凡そ二時間半計り、感激の涙の乾く間もない旅行でありました。

◇偶感と國際聯盟

その折車中で私は考へたのですが、「三つの白い箱と、民衆の間は何の關係があるか。さつきから何萬の人が敬禮するが、送る人と送られる戰死者との間にどう云ふ關係があるか。親戚か、故舊か、恐らくそう云ふ事はあるまい。では同鄕人であるか、否埼玉縣、群馬縣、長野縣を通過して、夕方新潟縣に入つて、初めて同鄕者と云へる。それまでの間は、謂はゞ無緣の人である。その人々がかうしてまで、まだ寒い三月の朝早く、迎へに出て來る。そこに何か仔細がなければならない。この三人の戰死者は、天皇陛下の萬歲を叫んで倒れたかも知れませぬ。或はその暇もなく倒れたかも知れぬ。併し想は君國の爲にあつた。大日本帝國のために、彈丸雨の中で倒れたのである。又、それ故にこそ、これ丈けの人が出て來たのであつて、他の原因で死んだのならば、勿論幾多の人が出て來る譯がない。即ち天皇陛下、大日本帝國――この一點に於て、そこに無言の凱旋をしてゐる人と、民衆と一致するのだ。吾々にはそう云ふ一致點があると云ふ事が有難い事である。今日まで金甌無缺の國體を維持して、絕海の孤島だつた日本が、今や五大强國の一になり、海軍に於ては、三大强國の一つとして、大なる發展をして來たのは、一つに此の君國と云ふ中心があつたからである。今後も天壤無窮に發展し、五年十年後には、日本が斷然、世界の指導者の位置に立つと確信を致しますが、そう云ふ盛運に達するのも、その中心を持つからである。實に吾々は有難い國に生れ合せたものだ」と斯う考へさせられたのであります。

又、曩にリツトン卿の一團が、東京に乘込んだ折、每日每夜彼等は大官から招待されて、御馳走になつてゐたが、あの一行は、海千山千の連中で（一行の事務總長ハースは猶太人である）そんな連中に、少々御馳走したつて、そんな事で御氣嫌を取結ぶ事は出來はしない。そんな事にかけたら、支那の方が一枚役者が上手なのであります。そこで考へました事は、それよりもむしろあの一行を此の汽車に乘せたかつた。一行中の一人でもよい。この車で一緒に新潟縣迄旅行させて、民衆が斯くの如く誠心誠意をもつてこ

の名前も知らない、三つの箱のために出て來る有樣を見せたかつた。そうして彼等が、實に滿洲問題解決のために倒れた、この無名の戰死者のために、斯くの如く出迎へてゐると云ふ事は、即ち「日本は滿洲問題解決のためには擧國一致してゐるんだな。これに對して下手な報告を書いても駄目だ。それこそ正面衝突になる計りだ」と云ふ事を認識して行つてくれたならば、報告の筆を下すにも、確に日本のためになつたらうと思つたのです。

もう一つ考へさせられました事は、この有樣を見たら彼は何と感ずるか、あの歐洲大戰の時に、私は向ふに行つて居りましたが、國家のために倒れた勇士に對して、斯くの如き盛大なる儀禮を持つて送迎したのは、唯の一度も見た事はないのでありますから、恐らくリツトン卿の一行も驚くだらう「實にこれは不思議だ。何で斯う云ふ具合に、犧牲になつた人のために、民衆が送迎するのだらう」と云ふ質問が出たに違ひない。そこで私は「貴公等の國と、我國とは國體が違ふのだ。即ち利害關係によつて、又營利會社を組織する樣な事で出來たのではない。我等は我國は君臣の分がちやんと定つてゐる。君を中心にして行くのだ、と云ふ事が、吾々の根本信念になつてゐる。恰も太陽を中心にして群星が廻る樣に、天體の運行が變らないと同じ樣にから云ふ信念を、吾々日本國民は持つてゐるのだ。求心力によつて强く中心に集つてゐるのだ。これが吾々の誇りなんだ」と云つてやる。……こう云ふ事を頭の中に描いてみた。併し一歩退いて見れば、このリツトン卿に、そんな事を云ふのぢやない、今や我國民は愛國熱が非常に旺んになつて來てゐるけれども、求心力が强いのだ。遠心力は離散して仕舞ふのだと云ふ事を理解してもらつて、國體を本當に擁護しなければいかぬのだ――と云ふ事を考へました。

若しリツトン卿が居つたならば、私は特に一言云はねばならぬ事がある。それは「お前さん所の總理大臣マクドナルドと云ふ社會主義者は、數年前ソシヤリスト・ムーヴメントと云ふ本を書いた中に「凡そ人間は、人間そのものが最高の存在であり、目的物であつて、他の如何なる人のための存在でもない」と云ふカントの言葉が、即ち社會主義の眞髓である、と云つてゐるが、私は絕對反對である。如何なる一木一草と雖も、或は一つかみの土石と雖も、そのものゝ爲の存在と云ふ事は斷じてない筈だ。凡てのものは、

各々世のために、役に立つものであつて、そのものの存在の爲のものではないのだ。木火土金水の各種の要素が久遠の昔から、永劫の未來に亘り、無窮のタイムの間に因と緣とによつて、色々の形をとるだらうけれども、それは世の爲に役にたつためである。個々は全體の爲である。

況んや萬物の靈長たる人間が、永い浮世に短い命をもつて生れて來て、自己の爲のみの存在などゝ云ふ事は決してない。日本人は全部から云ふ個人主義には反對だ。西洋人は個人主義、利己主義と云ふ事のみを知つてる。

尤もその反對に、利他主義と云ふ字が君の國にもある事も知つてゐる。併し利他主義はあまり行はれない。然るに吾國は利他主義の國である。

明治天皇は

おのが身はかへりみずして人のため
盡すぞ人の務めなるべき

と仰せられて、利他主義をお敎へになつた。我國に於ては天皇を中心にして、皆力を合せてゐる。これが即ち我國の誇りである。自分の利害をある程度まで犧牲にすると云ふ利他主義で我國は出來てゐるのだぞ」と云ふ事を、よく彼等に說いてやつたならば、必ず面白い會話が行はれるだらうとこんな事を色々考へて見ました。

今述べた樣に、あの多くの人が、戰死者に對する態度を以て、平常時の心としてやりましたならば、如何なる事柄もなし得ると存じますが、この間なども非常な非難の的になつた、島德藏氏などと云ふ先生を、昭和の上杉謙信と云つて、新聞などで冷かしてゐますが、上杉謙信は、鹽を義俠的に贈つたので、金を取らなかつたが、金を取つて鹽を送つたのでは、義俠でも何でもない。(笑聲)

そう云ふ個人主義になりますと、別の個人主義に立脚する所の、社會主義と何等選ぶ所がないのであります。島先生の如きは成功した個人主義者で、社會主義者は、不成功の個人主義と云ふ差丈であります。これはいづれも國家を危險に陷れるものであると私は思考する。

明治天皇陛下も

千萬の民の力を集めなば
如何なる業も成らんとぞ思ふ

と仰せられました。世間では資本家と所謂勞働者と、色々な對立を考へておりますけれども、私共は「億兆心を一に

して」と　明治大帝が仰せられた事を、心としたいのであります。今我國は政黨が二つに分れてゐる。億兆心を二つにして、互に敵視し對立してゐる。又此他にいゝ加減な所に、想像線を水平に引いて、これから下はプロレタリア、これから上はブルジョアジーであるとし、經濟鬪爭から、階級鬪爭に迄進めようと怒鳴つて居りますが、これは天地の大道に反し、國體に反するものであります。どうしても對立狀態ではなくして、中心を求めて結合して行かねばならぬ。軍閥と資本家と、この頃そりが合はなくなつたと云ふ事をきくが、そんな事はあるべき事ではない。何處迄もその本務に、最善を盡す事によつて、全體がよくなつて行く。內外多事多難の時局の善處すべく、吾々は擧國一致の精神を、しつかりと把握せねばならぬ。さすれば、フリーメーソン祕密結社の策謀、何のそのである。完全にノツクアウトが出來ると思ひます。

どうも話が前後して甚だ恐縮でした。フリーメーソン祕密結社に就いて大體あらましをお話したと存じます(拍手)

四王天氏の懇切なる御校閲を得たることを附記致します。

速記部紹介

——東京横濱地方の會員諸彥へ——

說演會、講演會、總會、會議、座談會、研究會、合評會、講習、著述、訪問速記、漫談講談等に皆樣の爲めの本會速記部を御利用下さい。

◇何時たりとも御用命に應じます。
◇其の正確、迅速、低廉に就ては既に御用命下さつた諸氏の御定評を戴いて居ります。
◇標準料金——講演一時間八圓(會員よりの御用命に對しては特に御相談に應じます)。
會議、座談會は一時間拾圓以上。
◇御申越し下されば直ちに部員參上致します。

東京市日本橋區通一ノ四
東京講演會速記部
電話日本橋(24)〇〇〇八番

講師　世界經濟研究所長　小島精一氏

時日　十月十三日(金)午五時半

場所　ヤシマホテル(日本橋交叉點白木屋向)

米國「青鷲」產業革命
ロンドン會議改訂
建艦競爭
各國ファッショ
吾國の統制經濟

經濟時局講演會

——世界危機！一九三六年——

晩餐費壹圓

講演終了後晩餐會を開き自由なる質問懇談をなす

主催　東京講演會

出口王仁三郎著

皇道大意

四六判一六〇頁
定價　六〇錢

皇道の本義を明らかにし、皇國國體の尊嚴及び其使命を詳述し、或は國教樹立を論じて現代の信仰墮落を救ふの急務なる所以を力說し、日本國民の進むべき道を明示す。今や日本國民は非常時に際し斷然歐米心醉の迷夢より醒め、皇道の大本を闡明して建國の大精神大理想に立ちかへり、日本人の大使命を自覺して空前絶後の昭和維新の大業に參加し活動すべき秋である。本書こそ國民の必讀すべきものである。

昭和青年會本部編

神示の國防

四六判一二〇頁
定價　一五錢

本書は皇道大本開祖出口直子刀自並に出口王仁三郎師の手を通じて、日本並に世界の神と人とに下されたる神示の中から國防に關するもの若干を拔萃し、之を時局と對照して同胞各位の國防運動に對する根本精神を確立し、古今未曾有の大變局に處して、眞に最後の決心を定めて、朗らかに擧國一致國難に當つて頂く爲に編んだものである。

昭和八年十月三日印刷
昭和八年十月五日發行
定價拾錢

東京市四谷區愛住町七十六番地
編輯印刷兼發行者　米倉嘉兵衛

東京市四谷區愛住町七十六番地
發行所　人類愛善會亞細亞本部
振替口座東京一八八九五番
電話四谷三五八五番

【特典】

五十部以上前金御註文の方に限り定價の二割引にて御頒ち致します

終

人類愛善運動
世界と日本の前途

人類愛善會亞細亞本部編

四六判　八十頁
一部　十錢　送料　二錢

海に・山に・日本に・世界に・急激な夜明けが來た!!
愛善[illegible]る限り、その前に備へを立直し
[illegible]らぬ

○世界の廻り舞臺は、急激に回轉をはじめた。總てのものは新しき舞臺に立たねばならぬ運命を持つてゐる。○世界に顏出しつゝある事相の悉くはその清算の段階である。物質文明の舞臺は既に九分通り幕の内に消滅した。○次の舞臺を支配するものは西歐文化を揚棄したる新しき東洋文明である。精神文明である。日本を中心とする文明である。○然らば、何が故に斯くなり行くか、その道程は果して如何。乞ふ本書によつてその眞相を知れ。

東京市四谷區愛住町七十六番地
人類愛善會　亞細亞本部
振替東京　八八九五番